

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 勝山市立成器南小学校_____（※正式名称を記載）

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫_____）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒911-0804

福井県勝山市元町3丁目10-38

E-mail minamisyo@edu.city.katsuyama.fukui.jp

Website <http://seikiminami.mitelog.jp/blog/>

児童生徒数 男子 173名 女子 163名 合計 336名

児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

（1）活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

当校は、「地元を誇りに思う児童の育成」を学校理念（活動テーマ）として、ESDの実践を通して地域の人・もの・こととのつながりを尊重する態度の育成を目標とした。

具体的には、ふるさと学習を柱に①自然環境に係わる活動、②福祉に係わる教育、③地域の産業に係わる学習、④地域の伝統文化に係わる学習を行った。

①地域の自然・環境に係わる活動

【公園探検を中心にした地域学習】

地域のいくつかの公園を探検し、学習発表会で発表した。

【野菜を育てよう】

地域の方から、児童が育てている野菜の育て方を教えていただいたり、実際に畑に行き、さといもやじゃがいもの苗植えと収穫体験をさせていただいたりした。

育てた野菜を調理し、パーティーを開いて、すみれグループさんへ感謝の気持ちを伝えた。

【大師山登山】

学校から見える「大師山」に、春夏2回（5月・10月）登った。

講師の方から、実物を目の前にして植物や動物についての話を

聞いたり、勝山にゆかりのある「泰澄大師」の話を聞いたりした。また、季節の違いを感じられるように、春夏2回登り、植物や周りの景色の違いを楽しんだ。



春の大師山登山

②福祉・健康に係わる教育

【園児を笑顔にするプロジェクト】

保育園でインタビューして調べたことをもとに、市立図書館で園児が喜ぶ本を選んだ。また、読み聞かせボランティアの方を講師として、読み聞かせの技を教わり、練習をした。校区の三つの園を訪問し、自分たちが考えた手遊びも交えながら園児に読み聞かせをした。

【お年寄りを笑顔にするプロジェクト】

高齢者疑似体験器具を装着して掃除や電話とそのメモ取り、階段の上り下り、新聞読み等を通し、身近にいるお年寄りの生活の大変さを学んだ。その体験をいかし、お年寄りに感謝の気持ちを含め、楽しんでもらえる内容を考え、公民館のふれあいサロンに出向き、パーティーを開催した。

【家族を笑顔にするプロジェクト】

自分の家族を笑顔にするためにできることを考え、冬休みの間取り組んだ。また、それぞれの活動を報告した。

【様々な立場の人とコミュニケーション】

- ・親子行事でニュースポーツを行い、誰とでも楽しむことができるゲームの良さを楽しんだ。
- ・社会福祉協議会の方を講師として、コミュニケーションについて学んだ。手話や災害ジェスチャーについても聞き体験した。さらに、校区に住む聴覚障害者の方をお招きし、手話で自己紹介し、事前に考えた質問に答えていただいた。普段の生活のことや趣味のこと、されると嬉しいこと等話していただいた。
- ・校区の3つ老人ホーム、公民館の老人会を訪問し、連合音楽会で歌った歌を披露した。
- ・それぞれの訪問先ごとに担当児童を決め、お年寄りとのふれあい活動を企画し、ゲームや肩もみなどをして楽しく交流した。



お年寄りとパーティー

③地域の産業・歴史に係わる学習

【地域巡り】

勝山の宝めぐりとして、「平泉寺散策・まほろば」「野外恐竜博物館での発掘体験」に出かけた。自分たちの住んでいる土地で昔どのようなことが起こっていたかを学習した。

【勝山再発見～織物の町 勝山～】

ゆめおーれ勝山から講師を招き、蚕の生態や養蚕繊維産業の歴史について説明を受けた。



蚕の飼育・観察

④地域の伝統文化に係わる学習

【左義長まつり】

地域のお祭りである「左義長まつり」について調べて、地域の講師の方に聞いて頂いたり、詳しいお話を聞いたりした。その後、祭り本番を楽しむことができるようお囃子を体験し、当日は、お囃子に参加したり見学したりして、今まで気付かなかったお祭りを受け継いできた地域の方の思いに触れた。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程 (指導計画) にどのよう

に位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200～300字程度)

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

低学年は生活科、中高学年は、総合的な学習の時間を中心に行っている。指導内容については、「地元を誇りに思う児童の育成」を元に、他教科の内容も考慮して、学習内容・指導内容を決めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

校内に ESD 担当者を設け、各学年での活動内容を把握する。

年度の終わりに担当学年の一年の活動を振り返り、来年度に向けて ESD の年間計画 (ESD カレンダー) の見直しをして次の担当者に渡す。次の担当者はそれを元に見直し・改善して一年の計画を立てている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価 (内部/外部) の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

学年末の学校評価に ESD の取り組みについての評価項目を設けている。成果としては、児童も教職員も自分たちの地域について知ることができ、地域とのつながりが増えた。各学年の取り組みが大まかに決まっていると新年度活動が始めやすい。

課題としては、活動に必要なボランティアやバスの確保が難しく、前年度中にも来年度を見据えての計画が必要である。

また、情報発信の方法も検討していく必要がある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項 2-2 に対応

毎年行われる学習発表会「南の子発表会」で、各学年学習活動の成果を発表した。参加者は、全校児童・保護者・地域の方・家庭地域学校協議会の方である。

各学年の取り組みを知るよい機会となり、改めて自分たちが住んでいる地域のよさや自分たちがたくさんの人に支えられていることを感じることもできた。

保護者や地域の方の地域に対する理解が深まり、外部講師やボランティアとして積極的に協力して下さる方が増えた。

⑥学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

（200字程度）

※チェック事項2-3に対応

市内のESD担当者会議で、各学校の取り組みや成果・課題についても共通理解している。

⑥ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項2-4に対応

北信越ユネスコスクール交流会に参加し、自校の取り組みについて発表したり、他校の取り組みについて知った。

⑦ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項2-5に対応

地域について課題を持って調べたり、体験したりすることで、ふるさとに愛着をもち、地元が好きと答える児童が増えた。

（3）平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- 1・2年生 公園を中心とした地域学習
地域の方と栽培地域学習
- 3年生 勝山の宝を見つけよう
（大師山登山、地域めぐり、左義長祭りへの参加など地域と関わる体験学習を行い進んで関わろうとする態度を育てる）
- 4年生 すべての人に笑顔プロジェクト
（地域の園児・高齢者などの方々との関わりを通して他者と協力する態度を育てる）
- 5年生 勝山再発見（産業・歴史・文化・地質）などをテーマに課題を見つけ調査活動する。）
- 6年生 勝山を幸せにしよう
（音楽を通して、地域の高齢者の方と触れ合う活動や地元の修学旅行プランを考えるなど、地域に自分たちができることを総合的に考える力を育てる。）